CHS 2

タイミングがずれていませんか？

支援のニーズは刻々と変わります。発災直後に足りなかったものが、数日後、支援物資として届けられたり、営業を再開した店舗で売られたりして、十分な量が手に入ることがあります。一方で、ニーズとして気づかれにくく、長期間にわたって不足するものもあります。

適切なタイミングで、適切な支援を届けるためには、災害後に刻々と変わるニーズを前もって想定することはもちろん、災害後は信頼性の高い情報源に基づいてニーズを確認することが大切です。

目立つ高齢者、女性
震災関連死 車内や避難所、施設で

エコノミークラス症候群

弾性

避難生活でリスクが高まるエコノミークラス症候群。予防効果が期待できる簡易ベッド設置や医療用靴下の配布を早期に実施しました。（2016年4月21日付の熊本日日新聞）

支援の質を低下させる起こりがちな例

遅すぎた支援

支援物資を用意する際、数や到着時期を必ず確認しましょう。支援のタイミングがずれるとせっかくの支援が無駄になるだけでなく、現場に大きな負担がかかります。

チェック

- 支援者は、変化し続ける状況とニーズに関する最新の情報を得たうえで、タイミングの合った支援をしていますか？
- 子どもや非日本語話者等、困っていてもSOSを伝えることが難しかったり、言い出しにくい困りごとを抱えている被災者のニーズを把握するには、専門性や経験が必要となります。支援者はそうした専門性や経験を備えていますか？

取り組み事例

熊本地震 病気の早期発見・早期介入で、命を守る

緊急期

認定特定非営利活動法人災害人道医療支援会（HuMA）

巡回診療で下肢の確認をする医師と看護師 ©HuMA

災害時には、健康を保つことが難しく、持病の悪化や感染症の拡大リスクが高まります。被災者の健康を維持するため、人が密集する避難所の他、支援が届きにくい車中泊や在宅避難者へ、医師と看護師が巡回診療支援を実施しました。高血圧など持病の内服が中断している被災者や感染症が疑われた被災患者に薬を処方しました。

また、熊本地震で避難の形態として多かった車中泊では、エコノミークラス症候群の危険が高まっていました。そこで、エコー検査の実施、弾性ストッキングの配布とその装着指導を行いながら、予防の啓発に努めました。

支援者の知恵

- 弾性ストッキング配布後も避難先を巡回し、継続的にエコー検査等を実施。血栓が疑われる患者には、医療機関での精密検査へと引き継いだことで、災害時でも早期発見、早期治療につなげることができた。

熊本地震 ニーズを先読みしてパソコンを避難所に設置

緊急期

特定非営利活動法人BHNテレコム支援協議会（BHN）

避難所での活用の様子 ©JPF

避難所で過ごす方々が、自由に利用できるパソコン、プリンター、Wi-Fi、インク、用紙等、ICT（情報通信技術）の設備（被災者全員向けおよび自治会役員向けの2組）を避難所内スペースに開設しました。情報収集や行政への提出書類作成をはじめ、避難所内イベント案内チラシを自分たちで教え合いながら作るなど、避難所フェーズからスタートさせた地域コミュニティづくりに効果がありました。

避難所閉鎖後は、速やかに仮設団地住宅集会所へ設備を移設し、ICT環境を維持。パソコン講習会やメンテナンスは地元協力者と共に継続し、持続可能な支援体制を構築できました。

支援者の知恵

- ICTに詳しい地元支援者と連携することで、長期間にわたり設備点検や幅広い活用相談等に応えることができた。
- 避難所閉鎖や仮設住宅の入居時期・設置場所の状況を事前に把握するため、行政とのコミュニケーションを丁寧にとっていた。